

第464号 5月号 2023.5.22

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

商店街の温かさを守りながら時代に合わせてリニューアル 「フィエスタ de la カワコッチ」

◆主催：フィエスタ de la カワコッチ実行委員会

2023年4月15日(土)・16日(日)に多治見ながせ商店街にて、「フィエスタ de la カワコッチ」が開催されました。本イベントは、ながせ商店街で開催していた「クラフトフェア」が今年で30周年を迎えるにあたり、イベント名を「フィエスタ de la カワコッチ」に変更し、内容もリニューアルしたものです。

本イベントは、多治見ながせ商店街振興組合が中心となり、「たじみ陶器まつり」と合わせて開催され、当日は大変多くの人が集まり、賑わいをみせていました。「フィエスタ de la カワコッチ」の実行委員である、松井侑樹さんと渡邊直美さんにお話を伺いました。



▲多くの人で賑わう「多治見ながせ商店街」

■ リニューアルへの想い

多治見駅から陶器まつりにいらっしゃった方は、商店街を通り、土岐川を渡って会場に行きま

す。その際に、駅から続く商店街を楽しんでもらうことも目的の一つになっています。「新しいイベント名は、商店街メンバーを中心とした実行委員8名で決めました。フィエスタは、スペイン語でお祭り。de laは、男女やみんなのという表現です。カワコッチは、本イベント会場であるながせ商店街と、陶器まつりの会場の本町オリベストリートが土岐川を挟んでいるため、川のこちら側…川のコッチ…カワコッチ、となり、川のこっちでみんなが楽しむお祭りという意味が込められています。」計画の時から楽しむことを大切にされたそうです。実行委員のメンバーの得意を活かして役割分担をしたことで、楽しく準備を進めました。「新しい試みとしては、SNSの活用です。事前告知を行い、集客力と認知度を上げるようにしました。毎日商店街のインスタグラムで出店者情報を紹介したことで、



▲自店の前に机を出し、商品を販売する商店街のお店

フォロワーが100人以上増えました。」Instagramを見て、お店を訪ねた方もいらっしやったようです。

「新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年は飲食を減らしましたが、今年は散策を楽しんでもらえるように、ひとやすみエリアを設け、多くのキッチンカーにも出店いただきました。」

■ 温かさを大切にしたいイベント

本イベントでは、「人と人の温かさやコミュニケーションを大切にしています。」出店者の多くは、手仕事で商品を作られている作家さんです。



▲多治見ながせ商店街振興組合理事長 玉木秀典さん

「多治見市は、陶器の街として有名です。また陶器をはじめ、雑貨やアクセサリなどの商品を手仕事で作られている作家さんが大勢いらっしやいます。一点ものの商品の販売により、作家さんの想いを感じられます。」

商店街としても作家さんを迎え入れる体制を整えているそうです。「出店者の方には、メッセージをつけたお菓子とお茶を、商店街からお渡ししています。出店者さんからも大変好評です。」

■ 今後の商店街の取り組み

「今回、イベントにおいて、商店街のお店24店舗に協賛となっただき、イベントちらしにお店の紹介を行うという取り組みをしました。イベントを自分ごととして捉えていただけたようになったと感じます。」当日は、商店街の方が自店の前に机を出して商品を販売する姿もありました。

「今後は、駅前エリアともタッグを組んで出店者を増やしたいです。また、時代に合わせてアプリやWebの活用もしたいです。」ながせ商店街は、ずっと変わらず人と人の繋がりを大切にしながらも、新しい時代にあった取り組みを進めています。

歩道を活用した新たな取り組み 「ほこみち（楽市楽座）」

◆主催：岐阜市商店街振興組合連合会

2023年4月1日(土)・2日(日)、岐阜市を代表する春のお祭り「第51回道三まつり」が行われました。そのイベントの一つとして、岐阜市商店街振興組合連合会は、1日(土)に「ほこみち(楽市楽座)」を開催しました。岐阜市の中心通り「神田町通り」と、織田信長ゆかりの地「円徳寺」で開催され、飲食店や雑貨店など18店舗のお店が出店しました。

今回、初めて国土交通省が2020年11月に創設した「歩行者利便増進道路制度(以下、ほ

こみち制度)」を利用して「ほこみち(楽市楽座)」が開催されたということで、ほこみち事業委員の青山知憲さんにお話を伺いました。

■ ほこみち(楽市楽座)に込められた想い

「2年ほど前から歩道を活用した、ほこみち事業について事業委員で話し合いを重ね、神田町通りの歩道を利用した取り組みを考えてきました。そして、ほこみち事業の第一歩として、ほこ



▲円徳寺内に店出されたお店で楽しむ人々

みち（楽市楽座）を計画しました。」自身も商店街にお店を出す青山さん。「このイベントを通して、商店街が更に賑わい、神田町通りが岐阜市のメインストリートとして、より活気づくことが願いです。」と、イベントに込められた想いをお話されました。



▲神田町通りの歩道に並ぶお店

■ ほこみち事業における苦労

「ほこみち制度を利用した事業を実施するにあたり、2年ほど前から計画を練ってきました。使用できる歩道の幅を測ったり、店舗と協力できるよう規約をつくったりと、初めてのことが多く苦労しました。」苦労はあったものの、協力してくれる仲間の存在や、商店街を盛り上げたという気持ちで乗り越えたそうです。

■ ほこみち事業の発展



▲歩道にできたお店で接客を受ける人

「今後も、岐阜駅からまっすぐ伸びる神田町通りの歩道に、様々な仕掛けをつくることで、商店街のお店にも立ち寄りやすくなるようにしたいと考えています。」今後の展望について、青山さんに語っていただきました。「このほこみち事業を更に発展させ、お祭りのとき以外でも歩道を活用させた取り組みを行いたいです。また、神田町通りには大きなアーケードとアーケードフラッグがあるので、それらを利用してお店の紹介をし、商店街が一体となって個々のお店と商店街のPRをしていきたいです。」今回のイベントを通じて大きな一歩を踏み出した、岐阜市商店街振興組合連合会ほこみち事業の今後の発展が楽しみです。



▲ほこみち事業委員の青山知憲さん(左)と高木宏茂さん(右)



街の象徴を活かして中心市街地に人を集める 「第9回 まちなかスクエアガーデン」

◆主催：大垣市商店街振興組合連合会

2023年4月2日（日）に、大垣市中心市街地で、「第9回まちなかスクエアガーデン」が開催されました。本イベントは、商店街や大垣城公園、丸の内公園など6つのエリアで開催され、飲食や美容、雑貨など55店舗が出店しました。今年度は、第1日曜日を中心に7回開催される予定です。第1回目の開催から1年を迎えた、「まちなかスクエアガーデン」について、実行委員長の西田拓馬さんにお話を伺いました。



▲商店街に立ち並ぶお店

■まちなかスクエアガーデンへの想い

「いつ来ても楽しいイベントになるように工夫をしています。」と話す西田さん。「今回は、桜の季節ということもあり、お客さんに大垣城の桜や公園の新緑を楽しんでいただけるよう、歩きながら街を楽しむイベント、ウォーカブルスタンプラリーを行いました。」まちなかの回遊性を高め、お店や場所を知ってもらうことが目的だそうです。

■まちなかスクエアガーデンの変化

「まちなかスクエアガーデンの最初の開催から1年が経ち、様々な変化がありました。まず、



▲公園に並ぶキッチンカーやお店

第一に出店者が増加したことです。イベントの良さを知り、以前よりも県内広域から出店いただけるようになりました。また、このイベントに関わって下さるボランティアの方も増えました。」イベントの認知度が上がったことにより、地元学生などがボランティアとして、中心市街地の活性化に関わりを持ってもらえるようになったそうです。「若い方にもお越しいただけるように、SNSを使った告知もしています。出店者の増加に合わせて来場されるお客さんも増えました。」まちなかスクエアガーデンへの出店をきっかけに、大垣市の良さを感じていただき、大垣市に店舗を構えた市外の方もいらっしゃるそ



▲お花見をしながらイベントを楽しむ人々

うです。

■ 変化のあるイベントづくり

いつ来ても楽しいイベントづくりを目指す、まちなかスクエアガーデンの今後の展望について伺いました。「大垣市の中心市街地は、商店街やお城や水路、公園など街を象徴する公共の空間がたくさんあります。街の象徴をうまく活用して、人々が集まるイベントを企画したいと思っています。」「まちなかスクエアガーデン」は今あるものを大切にするだけでなく、時代に合わせた工夫をし、進化し続けるイベントだと感じました。



▲街中散策を行う人々

【取材・記事 中小企業診断士 山口仁美】

◆「商店街等における課題解決のための専門家派遣及びワークショップ」に係る参加地域の募集開始 (令和5年度外部人材活用・地域人材育成事業)

事業概要

本事業では、地域の商店街等が抱える課題を解決し、当該地域の魅力・価値向上を図り、持続可能な地域に変革したいという思いを持つ商店街等を対象に、専門家による伴走支援を行います。

具体的には、選定された地域商店街において、来街者の消費動向や需要の変化を踏まえた空き店舗利活用(テナントミックス)や集客・にぎわい拠点の創出、デジタルツールの活用、既存事業や組合組織等の立て直し、民間事業者等との連携などの課題解決を目指し、専門家の派遣の下、ワークショップを複数回開催します。ワークショップを通じて、専門家から課題の深掘り・役割分担・スケジュール設定・資金調達の方法などについてのアドバイスを受けながら、商店街等が抱える課題に対するアクションプラン(今後の取組の方向性やスケジュール等)を検討・作成いただきます。

これらにより、地域が抱える課題を特定し、事業化に至るまでの課題解決に向けた知識やノウハウを身に付けていただくことで、地域で活躍する人材の育成を図るとともに、多様な関係者

が協力し合う推進体制の構築を目指します。

(1)実施時期

開催地域と相談の上、具体的な開催時期・開催期間を確定します。開催時期はおおむね令和5年7月から令和6年2月まで、1地域あたり4～8回程度のワークショップを想定しています。

(2)ワークショップの内容

選定された開催地域は、ワークショップ実施のための事務局(以下、地域事務局)を設置し、ワークショップへの参加を募っていただくとともに、ワークショップ事務局と一緒にワークショップの企画・運営などを行うこととなります。

なお、ワークショップ開催までの流れとワークショップの想定ケースは下記のとおりです。

①ワークショップの参加者想定

1 地域6～10名程度の参加を想定

②ワークショップの事前調整

- ・派遣される専門家の決定
- ・ワークショップの内容調整

③ワークショップの開催イメージ

以下の流れでワークショップを開催します。

■ワークショップ前半

開催地域が応募時提示した課題内容に対して、専門家とともに現地確認等を行いながら、採択地域が抱える課題の深掘り・特定や課題の再整理・優先順位づけを行います。

■ワークショップ後半

地域の課題解決に向けた取組の方向性や具体的な手段・体制に関する具体的なアドバイス等を専門家チームから受けながら、ワークショップ実施後も、地域が継続的に取り組める体制の整備を推進します。

(3)採択地域間の交流機会

今年度及び令和3～4年度のワークショップ採択地域同士が交流する機会を設け、地域間ネットワークを構築し、知識や経験等を共有することで、各地域の取組の持続的発展を後押しします。

応募対象者

商店街やその他の商業集積地（温泉街・飲食店街等）における商業活性化の担い手として活動している団体やグループであって、以下のいずれかに該当するものを対象者とします。

※応募主体を規定するものであり、ワークショップ参加者を定めるものではありません。

- 商店街組織等（商店街振興組合、事業協同組合等）

※商店街等を構成する団体で、任意団体でも構いません。

- 商店街組織等に属する者を代表者としたグ

ループ

※商店街等組織の下部組織（青年部等）などの任意団体。

- 民間事業者（まちづくり会社、NPO法人等）

※当該地域のまちづくり、商業活性化の担い手として活動する事業者。

募集期間

令和5年4月26日(水)～

令和5年6月15日(木) 正午必着

応募書類

- 応募様式(必須)

- 地方公共団体による連携計画書(任意)

※「地方公共団体による連携計画書」は、必ず地方公共団体が作成してください。

- その他補足資料(任意)

応募要領・応募様式は、全振連のホームページからダウンロードできます。

応募方法

別紙応募書類に必要事項をご記入の上、ワークショップ事務局宛てに、Eメールにてお送りください。

<ワークショップ事務局>

全国商店街振興組合連合会

外部人材活用・地域人材育成事業事務局

〒104-0033

東京都中央区新川二丁目22番6号 S J Iビル3階

TEL: 03-3553-9300

E-Mail: zen-kikakushien@bh.wakwak.com

■通常総会開催のお知らせ

第55回通常総会

日時: 令和5年5月29日(月) 13:30～

場所: OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム(岐阜市藪田南5-14-53)

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。